

世界獣医師会について

今回は世界獣医師会（WVA）について少しお話ししてみたいと思います。日本獣医師会の藏内会長が世界獣医師会の次期会長となったことは知っていますが、WVA がどのような団体で何を行っているのかについては良く知らないという方も多いのではないのでしょうか。

世界獣医師会は世界の獣医師や獣医療に関係する団体 101 団体が加盟する（オブザーバーを含む）組織で、構成する獣医師の数は 90 万人を超えます。日本獣医師会も 1954 年に加盟して以来会員団体の一つとなっています。

その目的は世界の獣医師に対して国際的なリーダーシップを発揮し、意見の表明や教育、パートナーシップを通じて動物の健康や公衆衛生を向上させることです。獣医学の領域において、信頼されかつ影響力のある存在として国際的に認められることを活動のビジョンとしています。

1863 年にドイツの J. ガムゲ教授の声掛けで開催された国際獣医学会をその起源とし、その歴史は実に約 160 年にのびます。ちなみに、日本の 1863 年は新撰組が京都に置かれたり、薩英戦争が起きたり、若き伊藤博文がロンドンに密航した年に当たります。ついでに検索してみたところ米国では南北戦争中（1861～1865）で、リンカーンが「人民の人民による人民のための政治」という有名な演説をゲティスバーグで行ったのもこの年でした。

WVA の現在の登記上の所在地はベルギーですが、欧州獣医師連合の建物の中にあつた事務所は数年前に廃止され、事務局員はいわゆる在宅勤務の形をとるとともに、歴史的な資料はスペインのマドリッドに保管されています。

WVA が現在積極的に取り組んでいる活動は「ポジションペーパー」、「ファクトシート」と呼

ばれる公表文書の作成と、年に 1 回の世界獣医師会大会の開催です。WVA が公表する文書のうち、意見表明を行うものが「ポジションペーパー」、科学的知見に基づいて情報を整理したものが「ファクトシート」とされています。こうして WVA が整理して発表した情報は広く世界に問題を提起するのみならず、学術論文の引用文献として利用されるなど、科学の礎にもなっています。

WVA のルールでは、これらの公表文書の陳腐化を防ぐため 4 年に一度見直しを図ることとされています。それだけでもかなりの労力なのですが、WVA ではその時々で世界の獣医師を代表する団体として世界に向けて訴えるべきと考えるトピックを選び、情報を発信しています。

具体的な取組は①ワンヘルスワーキンググループ、②動物用医薬品ワーキンググループ、③アニマルウェルフェアワーキンググループ、④獣医学教育ワーキンググループの 4 つのワーキンググループが不定期に会合を開催しながら進めています。ここで一つ驚きなのは、ほぼすべての活動がボランティアで行われていることです。各ワーキンググループでは世界中の専門家が時間を割いて侃々諤々の議論をしているのですが、それぞれが専門家としての使命感に基づきこうした取組に無償で参加していることは感動的ですからあります。日本からは本年より酪農学園大学の臼井 優教授がワンヘルスのワーキンググループに加わり、議論に貢献いただいているところです。

WVA による公表文書は昨年発出したものだけを見ても、養殖漁業、口バの取引、獣医療を支える関連専門家、獣医学教育、災害時の動物の扱い、攻撃的な犬への対処など、その対象・内容は多岐に渡ります。英語ではありますが WVA のウェブサイトにある「WVA policies」に過去の文書も含めてすべて掲載されていますので、気に

なるものだけでもぜひチェックしてみてください。

また、こうした情報発信以外では、MSD アニマルヘルスの支援を受けた獣医学生向けの奨学金や、アフリカなどの物資の供給が不十分な地域を念頭に置いた「必須医薬品（モデル）リスト」の製作、獣医学教育の高位平準化などにも注力していますし、近年は特に国際獣疫事務局（WOAH）や WHO、FAO 等の国際機関と連携した取組も活発に行っています。

昨年 の 10 月 には、現在の WVA 会長である米国のジョン・デヨン会長が世界獣医師会大会に出席してスピーチを行い獣医療と人の医療が共同して「ワンヘルス」の取組を進めることの重要性を訴えてもいます。こうした活動は地道なものですが、確実に世界の獣医師の地位向上に寄与していると考えています。

世界獣医師会の会議は先に述べた 4 つのワーキンググループの他、財務委員会や評議員会といった組織自体のマネジメントを行う委員会などがあり、計 10 会議ほどになります。その多くは 2～3 カ月に 1 度のペースで開催されていますので、すべて合わせるとその開催回数は年間で 40 回を超えます。

また、各々年に 1 度開催されている総会と対面での評議員会以外はすべてオンラインで行われるのですが、WVA の事務局員は欧州在住であり、また、ジョン会長は米国の東海岸をベースとしていますので、会議はほとんどが「欧州の昼で米国の朝＝日本の真夜中（22 時以降）」に行われます。また、ジョン会長をはじめすべての関係者がそれぞれに仕事を抱える中で WVA の活動に取り組んでいるため日程調整が難しく、1 日に複数の会合が開催される場合も間々あります。次期会長である藏内会長は基本的にすべての会議に

出席することが求められています。決して不平は口にされませんが、本来は朝型の藏内会長にとってその負担は小さくないものと想像します。

WVA のもう一つの活動の柱である世界獣医師会大会に目を移しますと、本年 4 月に南アフリカのケープタウンでの大会に先立って開催された WVA 総会で、2026 年の世界獣医師会大会を東京で開催することが決定しました（今年は米国のワシントン D.C. で 7 月に開催予定）。すでに日程と場所は確定しており、4 月 21～24 日に東京国際フォーラムで開催されることとなっています。この大会が日本で開催されるのは 1995 年の横浜大会以来、実に 31 年ぶりということになります。内容、プログラムの詳細はこれから多くの先生方のご協力をいただきながら一つ一つ決めていくこととなります。

前回の横浜大会は天皇皇后両陛下をはじめ総勢 1 万人以上が参加する非常に盛大なもので、今も日本獣医師会の役員室にはその際に発行された切手が飾られています（ご覧になりたい方はぜひオフィスにいらしてください）。今回の東京大会はコンパクトな大会にする予定でして、横浜大会に派手さでは敵わないかもしれませんが、「ワンヘルス」を大会のコンセプトとして、横浜大会に勝るとも劣らない、長く記憶されるものにしたいと考えております。

世界の獣医師や畜産・獣医療の関係者のみならず、学生のみなさんや、医師のみなさんなど幅広い関係者に参画いただいて、われわれの現在地を再確認しつつ、在るべき未来を垣間見る機会とすべく取り組んでいく所存ですので、これを読んでいるみなさまには一人でも多くその輪に加わっていただけますと幸いです。